

千葉歴史の散歩道

千葉市餅ヶ崎遺跡

—縄文時代中期終末から後期初頭の大規模集落—

千葉県教育庁教育振興部文化財課文化財主事 おざわ まさひこ 小澤 政彦



ここで紹介する餅ヶ崎遺跡は、千葉市若葉区源町280番に所在する遺跡で、都川に注ぐよしかわ葭川の谷奥に面する台地に立地している。この遺跡は千葉市動物公園の建設に伴い、発掘調査され、遺跡のあった台地全面が現在、千葉市動物公園となっている。

餅ヶ崎遺跡の特徴は、縄文時代中期終末から後期初頭（今から約4500～4200年前）の住居跡などの遺構や土器、石器といった遺物が多く出土したことである。南関東では、中期後半（今から約4800～4500年前）までは、大規模な集落や貝塚が形成されるが、中期末には途絶えてしまう。遺跡数をはじめ、当時の活動痕跡も大幅に減少しており、人口が激減したと考えられている。こうした現象と連動するかのよう、この時期には突如として、関西地方の伝統的な技法で製作された土器が出土するようになる。これは関西地方から人々が移住してきたことを示しており、社会状況が大きく変化したと考えられている。

餅ヶ崎遺跡は、中期後半では住居跡が10軒

程度しか発見されておらず、断続的に人々が居住していたと考えられるが、中期終末から後期初頭にかけて、遺構数が大幅に増加する。この時期の他の遺跡では、住居跡が数軒程度しか見付からないのが一般的であるのに対し、餅ヶ崎遺跡では50軒以上見付かっており、南関東では最大級の集落となる。関西地方や南東北地方の土器も出土しており、地域間の交流があったことがうかがえる。

その後の後期前半（約4200～3800年前）になると、餅ヶ崎遺跡では遺構数が大きく減り、集落は終焉を迎える。その一方でこの時期には、各地で大規模な集落や貝塚が再び営まれるようになる。餅ヶ崎遺跡は、大規模集落や貝塚の終焉から復活にかけて、社会の激変期に営まれた数少ない大規模集落なのであった。

千葉市動物公園内の動物科学館では、餅ヶ崎遺跡出土遺物の一部が展示されている。動物公園を訪れた際は、ぜひ立ち寄っていただき、社会の激変期に生きた先人たちの息づかいを感じてもらいたい。



餅ヶ崎遺跡出土の関西地方の伝統を持つ土器
(千葉市埋蔵文化財調査センター提供)



動物科学館での展示風景
(千葉市埋蔵文化財調査センター提供)

千葉教育 蓮 (No. 668) 令和3年6月24日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター (代表) 酒井 昌史
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL 043-276-1204
URL <http://www.ice.or.jp/nc/>

印刷所 千葉市療育センター いずみの家
〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3 TEL 043-216-2465